

音楽とセルロイド (オルガン・アコーディオン)

今から 134 年前の明治 14 年が、明治政変の年と云われています。政府はこの年、明治 14 (1881) 年 11 月 14 日付けで、小学校教則綱領を制定し、小学校の教育科目に音楽を加えました。

文部省は、音楽取調掛長・伊澤修二の編纂した「唱歌集」を全国の小学校に配付しました。同時に、外国より数多くのリードオルガン (足踏みオルガン) 及びアコーディオンを輸入し、小学校に配りました。

それからの日本人は、オルガンと言えぱリードオルガン (足踏みオルガン) と思ひこむようになりました。

しかし外国では一般的にパイプオルガンが弾かれ、足踏みオルガンはあまり見かけなかったようです。したがって外国では、オルガンといえぱパイプオルガンと云うことでした。

アコーディオンは、手風琴といわれて日本人に親しまれるようになりました。



※参考※ 明治 14 年の政変とは

明治 14 年に政府が、大隈重信を罷免したことによって薩摩閥の多くの局長・部長級の官吏が辞職したのです。

政府は、この年に伊藤博文を中心とする長州閥の指導力が強まりました。そして憲法制定・国会開設が約束されました。この明治 14 年の政変の時に、松方正義が大蔵卿となり、デフレ政策で日本の財政を再建しました。松方は鹿児島出身でした。

※※※

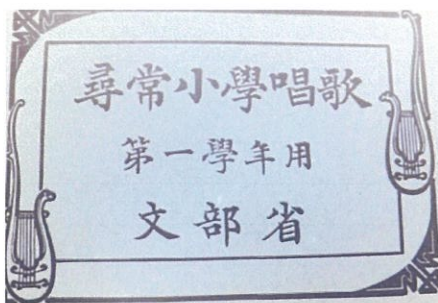
セルロイドハウス横浜館の3階の一部がセルロイド教室になっています。ここに写真のオルガン2台とアコーディオン6機が展示してあります。



オルガンには、上の写真左が YAMAHA、右が FUKUYAMA の商標が表示してあります。両方のオルガンの鍵盤がセルロイドで作られています。大正末期に作られたオルガンです。所有・使用者はセルロイドハウス横浜館創業者の故・岩井信次先生の夫人でした。

夫人は、東京赤坂の霊南坂教会の隣接家に生まれた生粋のキリスト教信者でした。東洋英和女学院に学び、若い人達に音楽を教えておられました。筆者には、このオルガンの前に立つたびに在りし日の夫人のお姿が偲ばれます。

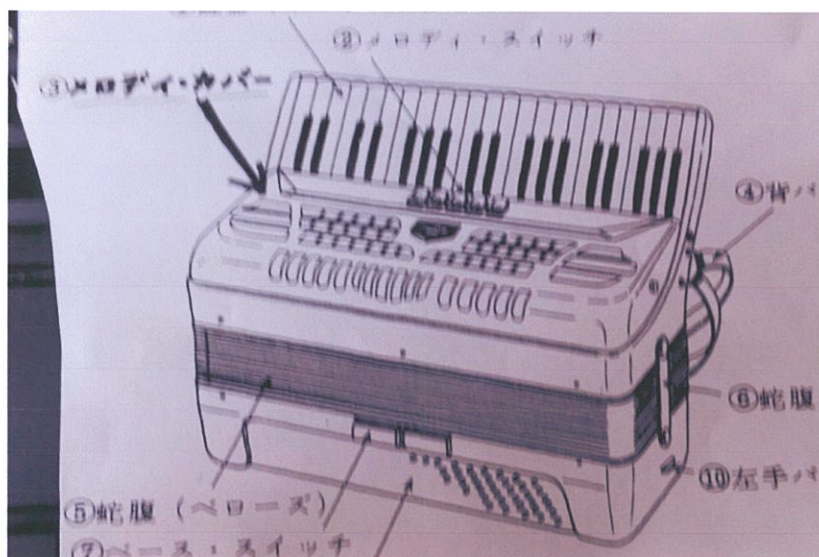
(※ 参考) 昭和初年の小学1年用唱歌の教科書



目 次	
一 日の丸の旗.....2	一 池の鯉.....22
二 鳩.....4	二 親の恩.....24
三 おきやがりこぼし.....6	三 烏.....26
四 人 形.....8	四 菊の花.....28
五 ひよこ.....10	五 月.....30
六 かたつむり.....12	六 木の葉.....32
七 牛若丸.....14	七 兎.....34
八 夕 立.....16	八 紙鳶の歌.....36
九 桃太郎.....18	九 犬.....38
一〇 朝 顔.....20	二〇 花咲爺.....40

3Fに、右写真のようなアコーディオン6機が展示してあります。6機とも小学校で合奏用に使用されたアコーディオンです。

これらのアコーディオンは有識者から寄贈されたものですが、過去にも市販されたことはありません。



昔から現在にいたるまで、アコーディオンの内外の製造販売業者は「商品の主要部がセルロイド製」である、とカタログに堂々と謳い都会の真ん中で販売しております。

販売店によると、アコーディオンのメロデーカバーはセルロイドに限る、ということです。

「最近ではプラスチックのメロデーカバーのアコーディオンが発売されているが、プラスチックは傷つきやすく、少しの傷でもメロディーカバー全体を取り換えねばならない。その点、セルロイドは傷のヶ所だけを修理すれば良いので結果的にセルロイドの方が安い」

と、イタリア製アコーディオン販売店の課長さんが気楽に話していました。その話で、日夜セルロイドに気持ちを張っている筆者にとって、気が楽になったような気がしました。

今日現在、イタリア製アコーディオンのセルロイド下請けをしている国はどこか、多くの方がご存じのこと、と思います。

==平成27年12月15日==